

2025年9月、黒島片泊の昆虫

中峯 浩司*

Insects collected on Katadomari (Kuroshima Island) in September, 2025

NAKAMINE Kouji*

はじめに

薩摩半島と屋久島の上に位置する三島村は、竹島、硫黄島、黒島の三つの有人島と二つの無人島からなる。このうち、黒島は標高620.6mの櫓岳を擁し、最も樹林が発達しており、昆虫相も他の二島と比べるとかなり豊かである(図1)。

当博物館による黒島の昆虫相調査は、これまでに幾度か行われてきた。中でもチョウ類に関する記録は多く、解明度は高いと考えられる(福田・森山, 2013)。また、バッタ類などについても精力的な調査が行われ(山下, 2016)、記録が蓄積されつつある。その他の分類群については調査不足の状況があるものの、近年はコガネムシ(小松ほか, 2025)やゾウムシ(小島ほか, 2019)、コメツキムシ(鈴木ほか, 2025)など、県外の研究者による調査・研究が進められている。チョウ類についても、温暖化や人為的要因による環境変化が与える影響を明らかにするため、継続的な調査が必要である。

今回、筆者は三島村役場定住促進課より、片泊集落に所在する三島片泊学園(以下、学園)における出前授業を依頼され、2泊3日の日程で黒島を訪れる機会を得た。10月に入った時期であったため飛翔する昆虫は少なかったが、チョウ類以外の昆虫についてもできるだけ多く採集することを心がけた。その結果、黒島初記録となるアオタテハモドキのほか、いくつか新知見が得られたので、ここに報告する。

1 調査日程

2025年

10月1日 9:30 鹿児島港発フェリー三島
15:35 片泊港着
14:30～ 授業の打合せ
15:00～ 資料収集
18:35～20:20 灯火採集

10月2日 7:30～9:00 資料収集
9:00～13:30 出前授業(小学生11名対象, 中学生7名対象の2コマ)及び児童との給食に同席
13:30～18:00 資料収集(集落～エバドンの墓)
10月3日 7:30～14:00 資料収集
15:50 片泊港発フェリー三島
19:50 鹿児島港着



図1 黒島

2 調査方法

主に片泊集落内およびその周辺を踏査し、目視による採集や、目撃した昆虫の記録を行った。10月2日の午後には、集落から南へ延びる一周道路の途中にあるエバドンの墓までを往復した。また、10月1日の夜には18:35～19:20の間、学園の校庭において灯火採集を行った。使用した機材は、全長32cmの10WブラックライトLED蛍光灯2本を1セットとするものを3セットであり、電源にはモバイルバッテリー3個を用いた。飛来した昆虫の一部は生体のまま宿泊先へ持ち帰り、翌日の出前授業において教材として使用した後、授業の最後に生徒によって放虫した。

* 鹿児島県立博物館

3 調査結果

採集・目撃した種のリストを以下に示す。記録はすべて2025年、採集者は筆者なので、これらを省略した。なお、目撃や鳴き声の確認の場合はその旨を記した。配列順序は琉球列島産昆虫目録(屋富祖ほか, 2002)に従った。

トンボ目 ODONATA

トンボ科 Libellulidae

- ・タイワンシオカラトンボ *Orthetrum glaucum*
集落(1♂1♀, 10月3日)
- ・オオシオカラトンボ *Orthetrum melania*
10月2日、宿の庭に置かれた水鉢に産卵中の1♀を目撃した。
- ・ウスバキトンボ *Pantala flavescens*
集落(1♂, 10月2日)
普通に見られたが、群れる状況はなかった。

ゴキブリ目 BLATTODEA

ゴキブリ科 Blattidae

- ・クロゴキブリ *Periplaneta fuliginosa*
集落(1頭, 10月1日)。
灯火採集時に得られた。学園の子どもたちによると、ゴキブリは地元で「ジコ」と呼ばれているという。

バッタ目 ORTHOPTERA

キリギリス科 Tettigoniidae

- ・ホシササキリ *Conocephalus maculatus*
集落(1♂, 10月1日)
灯火に飛来した。

バッタ科 Acrididae

- ・ショウリョウバッタ *Acrida cinerea*
10月2日、学園の児童が地元で捕獲し、プラケースで飼育中の1♀を確認した。
- ・マダラバッタ *Aiolopus thalassinus tamulus*
集落(1頭, 10月1日)。学園の校庭では多数の個体が見られた。
- ・トノサマバッタ *Locusta migratoria*
集落(1頭, 10月2日)

ハサミムシ目 DERMAPTERA

オオハサミムシ科 Labiduridae

- ・オオハサミムシ *Labidura riparia*
集落(1頭, 10月2日)
灯火採集で得られた。

ヨコバイ目 HOMOPTERA

セミ科 Cicadidae

- ・クロイワツクツク *Meimuna kuroiwa*
集落(1♀, 10月2日)(1♂, 10月3日)
各地で鳴き声を確認した。10月1日、学園での観察では、明るい時間帯に本種の鳴き声は少なく、ツクツクボウシの鳴き声が多く聞かれた。18:13頃に日が沈むとツクツクボウシが鳴き止み、代わりに本種が鳴き始めた。数は多い。18:27、次第に鳴き声が弱まって18:30に1頭のみとなり、18:33に完全に鳴き止んだ。当時の空は晴れ、やや風が強かった。
- ・ツクツクボウシ *Meimuna opalifera*
集落内で普通に鳴き声が聞こえた。エバドンの墓方面では少なかった。
- ・ニイニイゼミ *Planoptera kaempfi*
集落内では聞かれなかったが、エバドンの墓近くでマツの樹上から鳴き声があった。時期的にも少ない。

テングスケバ科 Dictyopharidae

- ・テングスケバ属の一種 *Dictyophara sp.*
集落(1頭, 10月1日)
灯火に飛来した。体長約10.5mm(図2)。

カメムシ目 HETEROPTERA

カタビロアメンボ科 Veliidae

- ・ケシカタビロアメンボ *Microvelia douglasi*
集落(無翅型5♂7♀, 有翅型2♂, 10月3日)
学園内の池で得られた。外部形態や雄の生殖器右交尾鉤の形から本種と同定した。黒島初記録となる。ゲンゴロウ類やガムシ類など他の水生昆虫は見つからなかった。なお、この池にはカダヤシが生息している。

アメンボ科 Gerridae

- ・シマアメンボ *Metrocoris histrio*
集落(3頭, 10月3日)。
学園の入り口付近を流れる小川で採集した。

サシガメ科 Reduviidae

- ・ピロウドサシガメ *Ectrychotes andreae*
集落(1頭, 10月2日)(1頭, 10月3日)

ナガカメムシ科 Lygaeidae

- ・ヒメジュウジナガカメムシ *Tropidothorax sinensis*
集落(2頭, 10月2日)
港へ降りる途中、ボタンボウフウの花に数頭が集まっていた。

オオホシカメムシ科 Largidae

- ・ヒメホシカメムシ *Physopelta parviceps*
集落(1頭, 10月1日, 灯火に飛来)
- ・オオホシカメムシ *Physopelta gutta*

集落 (1頭, 10月1日, 灯火に飛来)

ヘリカメムシ科 Coreidae

・ヒゲナガヘリカメムシ *Notobitus meleagris*

集落 (1頭, 10月2日) (1頭, 10月3日)

タケ類に寄生し, 以前は奄美大島以南に分布するとされていた外来種である (安永ほか, 1993) (図3)。県本土でも確認されている (林, 2025)。

カメムシ科 Pentatomidae

・ツヤアオカメムシ *Glucias subpunctatus*

集落 (1頭, 10月1日, 灯火に飛来)

・チャバネアオカメムシ *Pautia stali*

集落 (1頭, 10月1日, 灯火に飛来)

コウチュウ目 COLEOPTERA

オサムシ科 Carabidae

・ウスアカクロゴモクムシ *Harpalus sinicus*

集落 (1頭, 10月1日)

黒島初記録となる。灯火採集で得られた (図4)。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

・チャイロチビゲンゴロウ *Liodes megalocephalus*

片泊港付近 (5頭採集, 10月2日)

港に隣接する岩礁地帯上部の水たまりで得られた (図5)。確認できたのは2カ所のみで, 個体数も少ない。同じ環境に生息するシオダマリセシダマルガムシは見つからなかった。

ガムシ科 Hydrophilidae

・ケシガムシ属の一種 *Cercyon* sp.

集落 (1♀, 10月1日)

灯火採集で得られた。体長約4.0mmの個体である (図6)。

コガネムシ科 Scarabaeidae

・アオドウガネ名義タイプ亜種 *Anomala albopilosa albopilosa*

集落 (7頭, 10月1日)

灯火採集で得られた。他に飛来した数頭は授業の教材として用いた。

・フタスジカンショコガネ *Apogonia bicarinata*

集落 (5頭, 10月1日, 灯火に飛来)

10月に入ってからの記録で, 時期的に遅い発生と思われる。脚の欠損した個体が1頭含まれていたものの新鮮な個体がほとんどであった。

・アオヒメハナムグリ *Gametis forticula forticula*

集落 (2頭, 10月2日)

ハマボウフウの花上で得られた。

ケシキスイ科 Nitidulidae

・アカマダラケシキスイ *Lasiodactylus pictus*

集落 (5頭, 10月1日, 灯火に飛来)

カミキリムシ科 Cerambycidae

・サビアヤカミキリ *Abryna obscura*

集落 (1頭, 10月3日)

・トゲヒゲトビイロカミキリ *Allotraeus rufescens*

集落 (1♀, 10月3日)

ボタンボウフウの花上で採集した (図7)。

ハムシ科 Chrysomelidae

・ウリハムシ *Aulacophora femoralis*

集落 (2頭, 10月2日)

ゾウムシ科 Curculionidae

・シイギゾウムシ *Curculio hilgendorfi*

集落 (2頭, 10月1日)

灯火採集で得られた。

・ゾウムシ科の一種

集落 (2頭, 10月3日)

ボタンボウフウの花上で見られた (図8)。

ハチ目 HYMENOPTERA

コシブトハナバチ科 Anthophoridae

・キムネクマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolans*

集落 (1頭, 10月3日)

ミフシハバチ科 Argidae

・ルリチュウレンジ *Arge similis*

集落 (1頭, 10月2日)

ムカシハナバチ科 Colletidae

・クロシオメンハナバチ *Hylaeus insularum*

集落 (2♀, 10月3日)

キングチバチ科 Crabronidae

・ナミコオロギバチ *Liris subtessellatus*

集落 (1♀, 10月2日)

アリバチ科 Mutillidae

・フタホシアリバチ *Neotrogaspidia pustulata*

集落 (1♂, 10月2日)

寺山・須田 (2016) に黒島の分布はなく, 黒島初記録と思われる (図9)。

ツチバチ科 Scoliidae

・アカスジツチバチ *Scolia fascinate*

集落 (1♀, 10月3日)

寺山・須田 (2016) を参考に, 頭部の黄斑が発達していることから, 九州本土以北に分布する名義タイプ亜種 *S. f. fascinata* ではなく, 屋久島と同じ琉球亜種 *S. f. hoozanesis* と同定した (図10)。

スズメバチ科 Vespidae

・セグロアシナガバチ *Polistes jokahamae*

集落 (1頭, 10月3日)

ハエ目

ハナアブ科 Syrphidae

- ・オオハナアブ *Phytomyia zonata*
集落 (1頭, 10月3日)

チョウ目 (ガ類) LEPIDOPTERA

メイガ科 Pyraloidea

- ・モンウスベニオオノメイガ *Uresiphita polygonalis*
集落 (3頭, 10月1日, 灯火に飛来)
灯火に飛来した。
- ・シロオビノメイガ *Maruca vitrata*
集落 (1頭, 10月1日)
灯火に飛来した。

スズメガ科 Sphingidae

- ・フリッツエホウジャク *Macroglossum fritzei*
集落 (1頭, 10月2日)
次種とともにタチアワユキセンダングサに訪化する個体が多かった。
- ・ホシホウジャク *Macroglossum pyrrhosticta*
集落 (1頭, 10月2日)

ヒトリガ科 Arctiinae

- ・スジモンヒトリ本土・対馬・屋久島亜種 *Spilarctia seriatopunctata seriatopunctata*
集落 (1頭, 10月1日, 灯火に飛来)
学園で行った灯火採集で得られた。

ヤガ科 Noctuidae

- ・タマナヤガ *Agrotis ipsilon*
集落 (1頭, 10月1日)
灯火に飛来した。
- ・オキナワウスイロコヤガ *Azumaia Sugi*
集落 (1頭, 10月1日)
灯火に飛来した。

チョウ目 (チョウ類) LEPIDOPTERA

セセリチョウ科 Hesperiiidae

- ・クロセセリ *Notocrypta curvifascia*
集落～エバドンの墓 (1頭, 10月3日)
普通に見られ, 集落内でも目撃した (図11)。
- ・イチモンジセセリ *Parnara guttata guttata*
集落 (1♂1♀, 10月3日)
集落でもエバドンの墓方面でもシロバナセンダングサに訪化する個体を普通に見ることができたが, 個体数は多くはない。新鮮な個体が多く, 求愛行動を示す個体もいた。また, 地面を低く飛ぶ個体も見られたが, 明らかな産卵行動は確認していない。チャバナセセリは混じっていないようであった。

アゲハチョウ科 Papilionidae

- ・アオスジアゲハ *Graphium Sarpedon*
集落 (1♂, 10月2日) (2♂, 10月3日)
各地に普通。
- ・モンキアゲハ *Papilio helenus*
集落 (2♂, 10月2日) (2♂, 10月3日)
普通に見られた。片泊学園の校庭隅に生えるカラスザンショウの幼木に本種の幼虫が見られた。
- ・キアゲハ *Papilio machaon*
集落 (2♂, 10月2日) (1♂, 10月3日)
シロバナセンダングサやクサギへの訪花個体がよく見られた。
- ・ナガサキアゲハ *Papilio Memnon*
集落やエバドンの墓方面で普通に見られた。特にクサギを訪花する個体が多かった。
- ・アゲハ *Papilio xuthus*
集落 (1♂, 10月2日) (1♀, 10月3日)

シロチョウ科 Pieridae

- ・モンキチョウ *Colias erate*
集落 (1頭, 10月2日)
他には見なかった。
- ・キタキチョウ *Eurema mandarina mandarina*
集落 (1♂1♀, 10月2日)

シジミチョウ科 Lycaenidae

- ・ルリシジミ *Celastrina argiolus*
集落～エバドンの墓 (2♀, 10月3日)
普通である。ハギ類の新芽に止まる雌も複数見られた。
- ・クロマダラソテツシジミ *Chilades pandava*
集落 (3♂, 10月3日)
学園内にあるソテツの周りを飛ぶ個体を採集した。成虫は数頭のみで, ソテツに新葉はなく幼虫は見られなかった。
- ・ウラナシジミ *Lampides boeticus*
集落 (1頭, 10月3日)
港近くの草地に生えるハマナタマメ周辺に見られた。
- ・アマミウラナシジミ *Nacaduba kurava*
10月3日, シロバナセンダングサに訪花中の個体を目撃した。集落内で食樹となるモクタチバナを確認したが, 幼虫や周囲を飛ぶ成虫は見られなかった。
- ・ムラサキツバメ *Narathura bazalus*
集落 (1♀, 10月1日) (1♀, 10月3日)
- ・ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha*
集落 (1♀, 10月3日)
普通に見られた。

タテハチョウ科 Nymphalidae

- ・リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis similis*
集落 (1 ♀, 10月2日) (図12)
他に集落内で1頭目撃 (10月1日), 集落～エバ
ドンの墓で1頭目撃 (10月3日)。
- ・ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*
集落 (1 ♀, 10月2日) (1 ♂, 10月3日)
少ない。
- ・ヒメアカタテハ *Cynthia cardui*
集落 (2頭, 10月3日)
少ない。
- ・イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas*
エバドンの墓 (1頭, 10月3日)
他には見なかった。
- ・アオタテハモドキ *Junonia orithya*
集落 (1 ♀, 10月2日)
黒島初記録となる迷蝶である。シロバナセンダング
サに訪花中の個体を採集した。滞在中, 他に集落内
で新鮮な2♂と1♀を目撃している (図13)。
- ・ルリタテハ *Kaniska canace*
集落 (1頭, 10月3日)
少ない。
- ・アカタテハ *Vanessa indica*
集落 (1頭, 10月2日) (2頭, 10月3日)
少ない。

3 考察

(1) リュウキュウアサギマダラ

本種は, 本来, 奄美大島が分布の北限とされて
おり, 1970年代にはトカラ列島において採集例が
増加していたことが報告されている (福田ほか,
1982)。その後のトカラ列島における詳細な状況は
不明であるが, 近年になって屋久島において複数
年に渡って越冬していることがマーキング調査によ
って明らかとなり, 現在では屋久島南部が本種の分
布北限とされている (守山, 2023)。ただし, 屋久
島における本種の夏季の動向は不詳であり, 越冬
世代同士を結びつける確実な記録は, いまだ得ら
れていない。

本種の黒島における初記録は2006年7月17日
であるが (中峯ほか, 2007), 福田・守山 (2013)
や金井 (2015) ではこれが見落とされている。今
回採集・目撃した個体は, 3頭とも新鮮な状態であ
った。屋久島を含め, 南方からの移動個体の可能性
は否定できないものの, 食草であるツルモウリンカ
は自生していることから (鈴木英治ほか 2022; 中
峯 2007), 島内で発生した可能性も考えられる。

今後は, 食草の分布や量の状況を含め, 継続的な
調査が必要である。

(2) アオタテハモドキ

約40年前には, 本種の確実な土着北限は八重
山諸島とされ (福田ほか, 1983), その後, 越冬
可能な北限地域は奄美諸島と推測されていた (福
田・守山, 2013)。ところが近年, 種子島や屋久島
で採集・目撃例が増加し (久保田, 2018 –
2020), 種子島では2021年2月 (尾形, 2021)
および2024年3月 (守山, 2024) に, 越冬個体
と考えられる成虫が確認された。また, 2024年1
月には越冬中の幼虫も確認されている (中峯・中峯,
2024)。さらに, 2025年には, 薩摩半島南部の指
宿市において, 越冬した幼虫から羽化したと考えら
れる新鮮な雄雌成虫が4月に確認され, その子世
代と思われる複数個体が5月に同地で確認された
(中峯, 2025)。

今回, 食草の調査は行っていないが, 本種幼虫
の食草であるキツネノマゴおよびオオバコは, す
でに黒島に記録されている (鈴木ほか, 2022)。また,
食草として最もよく利用されるオギノツメについ
ても, 集落に近接する牧場などに生育している可能
性がある。今回採集・目撃した個体はいずれも新
鮮であったことから, これらの食草を利用して島
内でd育った可能性が考えられる。

おわりに

今回の調査により, 黒島から10目39科71種 (未
同定種を含む) を記録した。昆虫の多い時期では
なかったものの, チョウ類を中心として生息状況
を確認できたことは有意義であった。リュウキュ
ウアサギマダラやアオタテハモドキが順調に定
着するかどうかは不透明ではあるが, 温暖化の影
響による冬季気温の上昇や, 幼虫の食草および
成虫の吸蜜植物の増加などが生じれば, 定着の
可能性が高まると考えられる。今後機会をとら
えて調査を継続していくことが望まれる。

本研究における昆虫資料の収集は, 三島村から
許可を得て実施した。採集許可申請に際しお世
話になった十島村役場の関係者各位, ならびに
学園内での灯火採集を許可いただいた学園関係
者の皆様に厚く御礼申し上げる。

引用文献

福田晴夫・浜栄一・葛谷健・高橋昭・高橋真弓・田
中蕃・田中洋・若林守男・渡辺康之 (1982)

- 原色日本蝶類生態図鑑 (I). 277pp. 保育社, 大阪.
- 福田晴夫・守山泰司 (2013) 鹿児島県産チョウ類の分布ノート. *Satsuma*, (150) : 3-40.
- 金井賢一 (2015) 三島のチョウの分布に関する一考察. 鹿児島県立博物館研究報告, (34) : 87-94.
- 久保田義則 (2018) 2017年屋久島における迷蝶記録—タイワンクロボシジミを8年ぶりに採取—. *Satsuma*, (160) : 73-80.
- 久保田義則 (2019) 2018年屋久島における迷蝶記録. *Satsuma*, (163) : 63-69.
- 久保田義則 (2020) 2019年, 屋久島における迷蝶記録. *Satsuma*, (165) : 21-25.
- 小島弘昭・金子直樹・嶋本習介 (2019) 薩摩黒島から新たに記録されるオサヅウムシ科 (甲虫目ゾウムシ上科) の4種. *Nodai Entomology*, (1) : 9-10.
- 小松拓実・藤川浩明・梅田晴行・小寺優作 (2025) 鹿児島県三島村 (大隅諸島竹島, 硫黄島および黒島) におけるコガネムシ上科の分布記録. 鹿児島県立博物館研究報告, (44) : 31-42.
- 守山泰司 (2023) 屋久島におけるリュウキュウアサギマダラの動静 (5) — 2022 ~ 23年も越冬を確認, 屋久島南部に定着—. *Satsuma*, (171) : 69-73.
- 守山泰司 (2024) 種子島におけるアオタテハモドキ 2024年3月の記録. *Satsuma*, (175) : 18.
- 中峯浩司 (2025) 指宿市で2025年4月~6月にアオタテハモドキを確認. *Satsuma*, (177) : 68.
- 中峯浩司・中峯敦子 (2024) 種子島で1月にアオタテハモドキの幼虫を採集. *Satsuma*, (174) : 50.
- 中峯浩司・江平憲治・今村久雄 (2007) 鹿児島県三島村・黒島 2006年7月の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告, (26) : 89-101.
- 尾形之善 (2021) 種子島で越冬したアオタテハモドキ. *Satsuma*, (167) : 47.
- 芝敏晃 (2025) 2025年, ヒゲナガヘリカメムシの目撃・採集記録. *Satsuma*, 178 : 38-40.
- 鈴木英治・丸野勝敏・田金秀一郎・寺田竜太・久保紘史郎・平城達哉・大西亘 (2022) 鹿児島県の維管束植物分布図表—全県版—. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, (17) . 526pp.
- 鈴木瓦・小島弘昭・柳原健人・堀内一樹 (2025) 鹿児島県大隅諸島上三島のコムツキムシ. 鹿児島県立博物館研究報告. (44) : 23-30.
- 寺山守・須田博久 編著 (2016) 日本産有剣ハチ類図鑑. 735pp. 東海大学出版部, 神奈川.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 (1985) 原色日本甲虫図鑑 (II). 514pp. 保育社, 大阪.
- 安永智秀・高井幹男・山下泉・川村満・川澤哲夫・友国雅章 (監修) (1993) 日本原色カメムシ図鑑. 380pp. 全国農村教育協会, 東京.
- 屋富祖昌子・金城政勝・林正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・川村太 (編)・東清二 (監修) (2002) 琉球列島産昆虫目録 増補改訂版. 570pp. 沖縄生物学会, 沖縄.
- 山下秋厚 (2016) 鹿児島県三島村黒島のバツタ目, ゴキブリ目, ハサミムシ目, カマキリ目. *Satsuma*, (157) : 113-123.



図2 テングスケバ属の一種



図3 ヒゲナガヘリカメムシ



図4 ウスアカクロゴモクムシ



図5 チャイロチビゲンゴウの
生息環境



図6 ケシガムシ属の一種



図7 トゲヒゲトビロカミキ



図8 ゾウムシ科の一種



図9 フタホシアリガタバチ

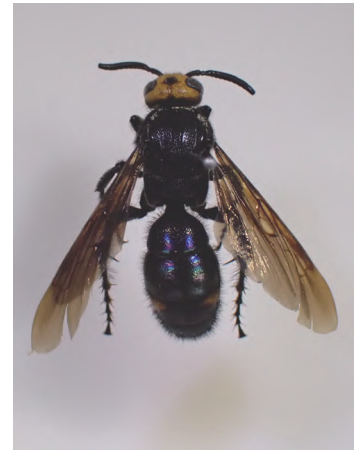


図10 アカスジツチバチ



図11 クロセセリ



図12 リュウキュウアサギマダラ

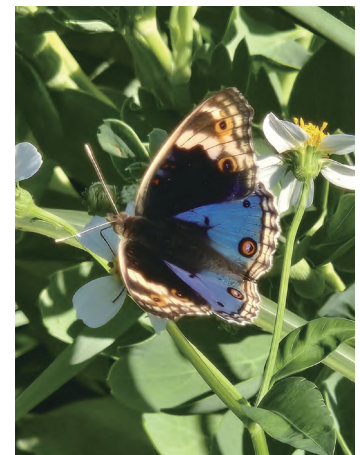


図13 アオタテハモドキ